

七尾港 国際物流ターミナルの整備

国際物流ターミナルの整備により、大型船の寄港が可能となり、利用港湾と貨物消費地の陸上輸送距離が短縮され、陸上輸送コストが削減される。

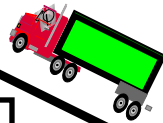
【陸上輸送コスト削減効果】(原木貨物)

- 国際物流ターミナルの整備により、大型船の寄港が可能となり、利用港湾と貨物消費地の陸上輸送距離が短縮され、陸上輸送コストが削減
- 便益は、年間52.8億円

整備しない場合：舞鶴港を利用

主な貨物：原木

荷主



陸上輸送距離 308km(片道)

七尾港



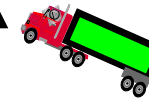
舞鶴港



海外(北米)

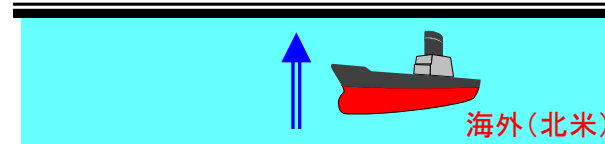
整備する場合：七尾港を利用

荷主



陸上輸送距離 0.5km(片道)

七尾港



海外(北米)

陸上輸送コスト削減便益 52.8億円/年

【陸上輸送コストの削減効果イメージ】

七尾港 国際物流ターミナルの整備

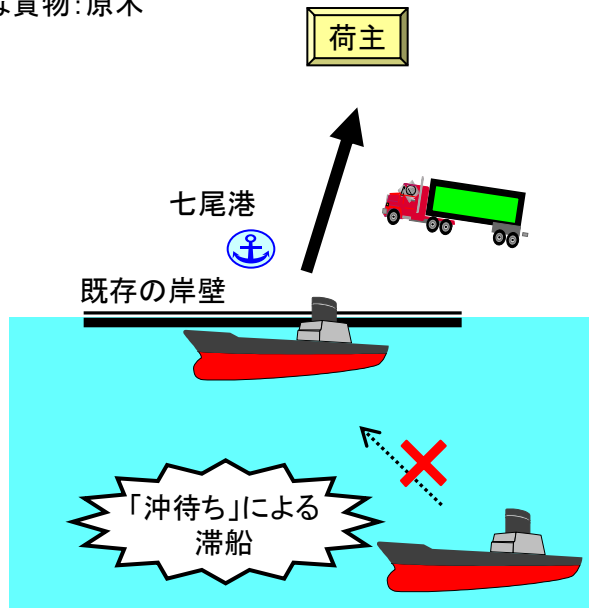
国際物流ターミナルの整備により、岸壁が整備され、既存の岸壁に着岸できない船舶の「沖待ち」による滞船コストが削減される。

【滞船コスト削減効果】

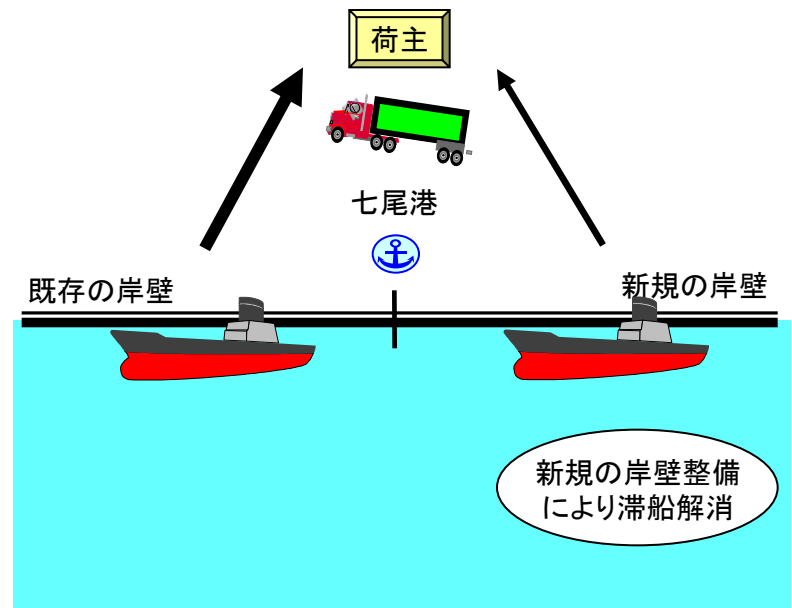
- 国際物流ターミナルの整備により、岸壁が整備され、既存の岸壁に着岸できない船舶の「沖待ち」による滞船コストが削減
- 便益は、年間0.4億円

整備しない場合

主な貨物：原木



整備する場合



滞船コスト削減便益 0.4億円/年

【滞船コストの削減効果イメージ】

七尾港 国際物流ターミナルの整備

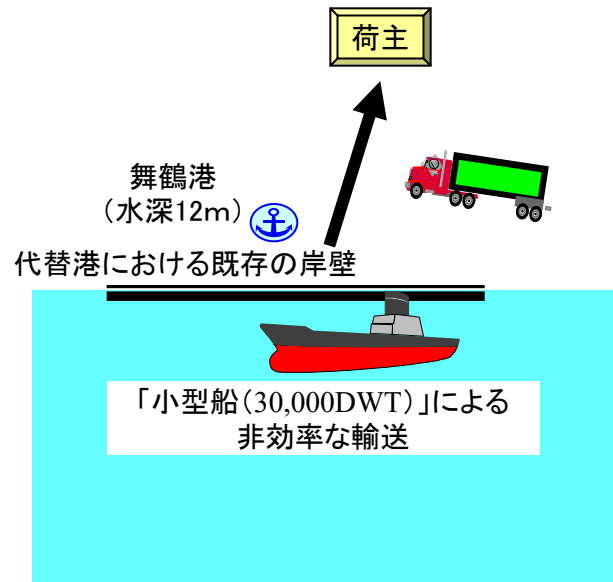
国際物流ターミナルの整備により、大型船の寄港が可能となり、海上輸送コストが削減される。

【海上輸送コスト削減効果】

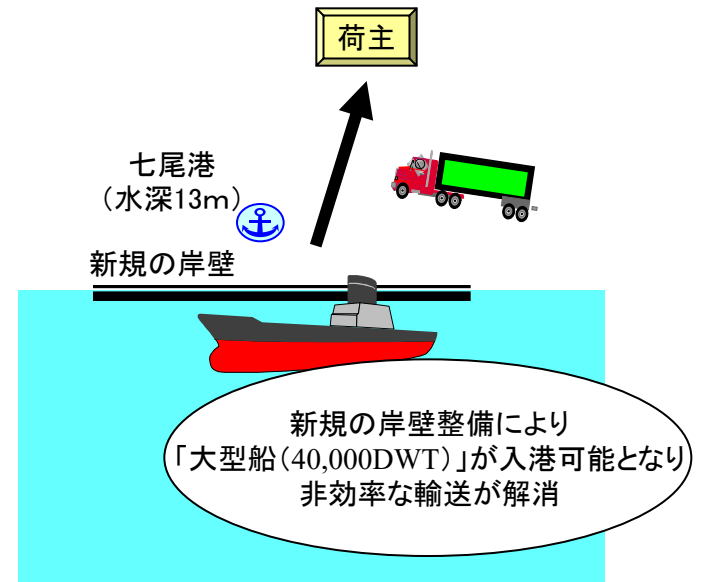
- 国際物流ターミナルの整備により、大型船の寄港が可能となり、海上輸送コストが削減
- 便益は、年間1.0億円

整備しない場合

主な貨物: 原木



整備する場合



海上輸送コスト削減便益 1.0億円/年

【海上輸送コストの削減効果イメージ】